

第1号議案

第 18 期(2023 年 12 月度)事業報告書
2023 年 1 月 1 日から 2023 年 12 月 31 日まで

特定非営利活動法人 五環生活

1. 事業の成果**概要**

公に「コロナ禍」が明け、満を期して、国内外から旅行や野外活動を求める人々の動きが活発化した。この動きは五環生活の主軸事業であるレンタサイクル運営事業によく反映され、事業として好調を取り戻した。一方で、物価高騰の影響は事業経費にも現れ、とくに燃料費と部品代の高騰に対応しなくてはならず、事業年度初めにレンタサイクル料金改定を行った。これにより活動の維持継続を確保することが出来た。

コロナ禍を経て自転車アクティビティに注目が集まりサイクルツーリズムが活発化する中、各地でレンタサイクル事業の展開を検討する自治体や企業体が出てきており、五環生活の米原駅サイクルステーションにおける事業が先進的取り組みと評価され視察を受けることも増えてきた。滋賀プラス・サイクル推進協議会会員として定期的に会議出席し会員相互の情報交換も行っており、こうした内外の動きを知ることが活動の方向性に刺激を与えている。五環生活の実績が全国各地でのサイクルステーションの設置および全国的なサイクルツーリズムや自転車環境の向上に貢献しつつあるかもしれない。

1) 自転車タクシー運営事業

第 12 期に事業休止とした。

2) レンタサイクル運営事業**2-1 概要**

第 18 期の「びわこ一周レンタサイクル」の米原駅サイクルステーションでの営業は 2023 年 2 月 18 日から 12 月 12 日まで 273 日間行った。2023 年 1 月に自転車部品の高騰による影響を主な理由としてレンタサイクル料金を改定した。客足については、コロナ禍終了に伴うあらゆる活動の盛り上がりと外国人観光客の入国緩和によるインバウンドの再来の波により、レンタサイクル事業全盛期に近い状況に戻った。採算面においても事業の回復を実感することが出来た。

また、今年はコロナ禍を挟んだ 4、5 年ぶりの国内外からのリピーターとの再会も多くあり、ユーザーのビワイチに抱く思い入れや期待を感じた。利用者が増えるとそれだけトラブルも増えるが、学ぶことも多く、一人ひとりのユーザーにいかに安全で楽しいサイクリングを提供することが出来るかを第一に、予約対応、貸出手順、車体整備、利用中のフォロー等、全てにおいて改良を加えアップデートしてきた。

2-2 「びわこ一周レンタサイクル」利用者について

前年度(2022 年1月～12 月)と比べ利用者数は全体で 611 人増の 2,353 名(前年度比 135%)となり、コロナ禍前水準(2019 年度比)の 93%にまで回復した。全体に占める割合が下がったのが大阪、滋賀、京都であり、大津港サイクルステーション稼働の影響が見られる。外国人の利用については大幅に増え、前年度の 5.5 倍の約 455 名の在日外国人およびインバウンドの利用があった。組数でカウントした場合にはアメリカ、香港、台湾、オーストラリア、シンガポール、のようになり、肌感覚でもアメリカからの利用が非常に増えた印象がある。また、台湾よりも香港、シンガポールからの頻度が増えた。

2-3 途中返却利用と課題

前年度より 9 台増えて 128 台が米原以外の途中返却拠点を利用して返却された。うち 6 件 9 台は途中返却の事前予約なく出発後に自己都合や体力不足を理由にリタイヤを希望されたケースであり、非常手段と

して利用された。途中返却車体の回収は、ヤマトマルチチャーターに依頼してきたが、燃料費高騰のため 5 月 1 日より運送料金が改定された上に、回収車体台数について 1 拠点 5 台以上でのみ対応可と変更になった。途中返却は、1 台から 2 台単位での利用が多く、一度に 5 台以上返却されるのは年間 3 件まで程度という傾向にあったため、当業者に車体回収を依頼するのが困難になった。結果、年間で業者依頼分は 54 台、うち 5 月 1 日以降 12 月の今季営業終了までは計 3 回 15 台のみであった。残り 74 台分は社有車で都度回収した。今年度途中返却拠点として最も多く利用されたのはジャイアントストアびわ湖守山で、マキノグランドパークホテル、ホテル琵琶レイクオーツカが続く人気拠点であった。いずれも往復 100 km 以上、最低 2 時間を要するため、スタッフが通常業務の時間内で行うには厳しく効率が悪い。利用者に対する利便性を維持したいところではあるが、サービス提供側の負担増を鑑みると利用料金を改定せざるを得ない。今年度は、滋賀県の補助金「レンタサイクル途中返却推進事業補助金」を活用することにより事業実施期間(2023 年 6 月～12 月)の車体回収にかかった経費の半分は補助される予定である。また、同補助金により途中返却推進に伴い必要な車体購入費用が補助されるため、期間中計 12 台の新車を購入した。

2-4 旅行会社のサイクリングツアー商品におけるレンタサイクル

2018 年以來サイクリングツアー用大口レンタサイクルの提供としてオファーのあったドイツ JFTours 社に対し、2023 年度も 3 月に 1 回、4 月に 3 回、5 月に 1 回、毎度 17 台から 23 台を貸出した。しかし、6 月に連絡があり、予定されていた 7 月以降のツアーについては日本に拠点を置く関連会社に外注委託されることになった。7 月以降は、(株)ミキ・ツーリストおよび J-Navigator から予約を受け、7 月に 2 回、8 月に 1 回、10 月に 1 回、11 月に 1 回、毎度 14 台から 29 台を貸出した。年間では、計 10 回にわたり総計 194 台のクロスバイクをドイツ人観光客に提供した実績となった。ツアーはいずれもエージェント手配のドイツ人添乗員のガイド付きで米原彦根間の約 5 時間定番コースではあるが、毎度変わるガイドが自転車に関する知識や土地勘に乏しく事前の下調べが不十分であるケースが多く、湖岸道路までの先導走行や昼食のアドバイスなどのフォローをした。1、2 名転倒され軽傷を負って返却されるケースも出るものの、概ね無事に、また、自転車の質に満足して帰ってこられた。ドイツ人の体型に合わせ XL サイズを増量して対応したことが満足度につながっていると思われる。また、2-8 のビワイチ記念タオルをノベルティ配布したところ大変喜んでもらった。

2-5 個人団体利用や研修旅行としての利用

ボーイスカウトによる琵琶湖一周サイクリングアクティビティのためのレンタサイクル利用が 3 月と 8 月に各 1 回あったが、3 名から 5 名程度の小規模であった。

4 月 5 日に埼玉からの個人の団体 9 名によるマキノ途中返却の終日利用があった。翌 4 月 6 日に香港からの 13 名の団体をアテンドする埼玉からの個人ガイドと友人親子による総勢 16 名の利用があり、琵琶湖一周された。6 月 3 日に個人の 20 代初めの学生団体 12 名による琵琶湖一周利用があった。

2-6 レンタサイクル車体事故

レンタサイクル利用者が乗車中に事故を起こしたケースが 2023 年に 2 件発生した。

2-6-1 2023 年 9 月 15 日自損事故

ポーランドから旅行で訪日中であった 2 名の男性が 9 月 15 日にレンタサイクルを利用した。目的地は、びわこ一周レンタサイクルのホームページのおすすめコースとして紹介している「伊吹せんろみち」方面であったが、正午ごろ電話連絡があり、下り坂で転倒し乗車本人が負傷、車体も損傷したとの事故連絡があった。場所は、県道 246 号大鹿寺倉線の八坂神社鳥居前。ローザンベリー多和田を過ぎたところの坂道を下っているときにスピードを落とそうとしてブレーキをかけたのが右だったため前輪にのみブレーキがかかり、前転し、乗車男性は前方左方向に投げ出され顔面左側、左腕肘、左膝に外傷と右手首の打撲の負傷を負った。また、車体は転倒時の衝撃でハンドルが破断した。ポーランドではハンドル右が後輪にかかるブレーキであるが、日本の自転車ではハンドル右側は前輪にブレーキがかかるように組まれている。ブレーキの仕組みが逆であるという知識がなかったため、また、こちらも意識して伝えていなかったため、男性がとっさのブレーキの際に反射的に慣れたやり方でかけてしまったことがこのような事故に繋がった。男性は、外傷以外の問題はなく、救急で応急処置を施され警察の事故処理にも対応した後は日本で予定通りの旅程を過ごし

たと聞いている。大事に至らなくて幸いであったが、これを教訓に、以降、外国人旅行者の利用の際には必ずブレーキの仕組みについて伝えるようにしている。

2-6-2 2023年10月28日交通事故

10月27日から2日間のレンタサイクル予約をしていた6人組の男女グループのうち、代表の2名のみが来店し貸出手続きを行い、残り4台も引き取られた。翌日の午後、グループの一人から電話があり、自動車との衝突事故に遭ったと連絡があった。場所は、大津市堅田一丁目1番8号先県道。事故車体は、乗車本人に代わって代表者が引き取った4台のうちの1台であった。乗車していた女性の走行中の前方不注意で、交差点で左折してきた自動車に気づかず直進しようとして衝突したと聞いている。女性は顔などを負傷したが入院等が必要になる程ではないと聞いた。しかし、車体の方は強い衝撃を受けており今後使用不可と判断したため、自動車を運転していた加害者の保険会社に全損買い替えで請求している。

この事故を受け、実際にレンタサイクル車体を使用する本人が説明を受け試乗して操作確認をすることの重要性を改めて認識したため、利用規約第2条(利用資格)において、「4. 使用者本人として貸出日に試乗できる方」を追加する。また、レンタサイクルのホームページの注意事項にも同じ内容の記載を追加し、代理人による貸し出しを不可とすることを明示する。

2-7 レンタサイクル事業視察対応

6月27日に福井県高浜町役場から8名、9月15日に第7回琵琶湖保全再生推進協議会幹事会の方総勢50名を迎え、米原駅サイクルステーションについて施設紹介や実績紹介を行った。12月11日には、突然の訪問ではあったが、米原駅サイクルステーションと同様に新幹線駅にサイクルステーション展開をしている岐阜羽島駅併設BLOCK47-Cycleの3名が来店され情報交換を行った。

このほか、視察ではないが、ビワフロント彦根や亀の井ホテル彦根の営業の方が来店されビワイチサイクリングアクティビティをホテル客に情報提供するにあたっての相談やホテルサイトでのびわこ一周レンタサイクル紹介の提案等があった。また、JR東海ツアーズの営業の方から米原駅発の滋賀旅コンテンツのひとつとして掲載したいとの相談を受けた。

2-8 ビワイチ記念タオル作製

滋賀県の「ビワイチ商品開発支援補助金」を活用して「ビワイチ記念タオル」を1,200枚作製した。びわこ一周レンタサイクル利用者の記念品やお土産に、また、米原駅サイクルステーションのシャワールーム利用の際の実用的な品となるよう「びわこ一周レンタサイクル」のブランド名とビワイチ公式ロゴ、「TRY200 km」の文字が入ったデザインの5色カラーバリエーションで商品開発した。9月12日より1枚330円で販売開始し、12月の今季営業終了までに62枚が購入された。販売以外に、何度もレンタサイクルを利用いただいているドイツからのツアー団体やサイクリングツアーの走行ガイドを依頼した方々等へノベルティやお礼として24枚配布した。

3) サイクルイベント事業

3-1 概要

サイクルイベント事業は、外部のイベント主催者から五環生活に依頼があり、イベント車体提供、イベント補助、メカニックサポート、ツアーガイド、イベント内コーナー出展・運営として関わったもの、および自主ツアー事業としてのファンライドである。

3-2 ヤスイチサイクルフェス(3月11日)

野洲市観光物産協会主催でJR野洲駅南口駅前広場にて初めて行われたイベントの中で、試乗体験と自転車発電ブース出展を依頼された。五環生活からは試乗体験用に6台と自転車発電キットのみ搬入し体験会実施を行った。体験申込者数は95名だったが、同じ参加者による複数回利用が多数あったため実際の貸出回数は1.5倍程度であったと推定される。全体の6割が10歳までの子どもでキッズバイクに待ちの列が出来た。参加者の77.9%が野洲市内、12.6%が県内、9.5%が県外からの来場であった。

3-3 近江ツーリズムボード依頼のインバウンド個人ツアー(4月14日)

(株)デスティネーションアジア・ジャパン/Tokyo から、(一社)近江ツーリズムボードが仲介する形で五環生活にツアーガイドとレンタサイクルの依頼があった。ツアーコースは予め商品内容として指定されていたもので、びわこ一周レンタサイクル Web サイトのおすすめコース「彦根観光と芹川・松原並木」がそのまま適用されていた。申込されたアメリカからの 5 人家族にクロスバイク 5 台とガイド 1 名を提供しサイクリングツアーを催行した。米原駅サイクルステーションを出発し、磯集落経由で琵琶湖にアクセスしたあと、松原水浴場に立ち寄った。湖岸沿いにさらに南下してから芹川沿いを走った後キャッスルロードに到着し、お昼休憩を含めた自由時間をとった。その後は武家屋敷を散策し、彦根城内濠沿いを通って記念撮影した後帰路に着いた。3 時間半の短いツアーであったが満足された様子だった。今期、近江ツーリズムボードからは、この一本以外には依頼されるものはなかった。

3-4 MYCLING スタンプチャレンジ(8月26日～11月30日)

米原市の「サイクルツーリズム推進業務委託」を受託した奥伊吹観光(株)が企画し、(株)オレンジフィットと(一社)スポーツウェルネスが運営した「MYCLING スタンプチャレンジ」イベントに協力した。いわゆるデジタルサイクルスタンプラリーで期間は 3 か月余り、この間にスタンプを 10 個以上集めると参加賞を入手することが出来、豪華景品に応募する資格が与えられるのでその申込の場所として米原駅サイクルステーションが協力した。また、豪華景品のひとつとしてびわこ一周レンタサイクルのペアチケット券を提供した。ペアチケット券は運営側が購入し、抽選に当選した該当者に送付されている。スタンプチャレンジの参加者で参加賞引き換えに米原駅サイクルステーションまで来たサイクリストは 100 名弱であった。

3-5 H&S 親子ビワイチ体験イベント(10月28日)

平和堂とサントリーフーズの共同 CSR 事業として 2019 年より毎年企画されてきたが、実施されたのは初年度のみで以降の年はコロナ禍や天候不良等により見送られてきた。第 5 回目となる今年度は実施されたが、午前中からの強風と昼からの降雨により主催者が午後の部の中止を決めた。主催者が午後の部の参加者親子に説明し用意されていた参加記念品を渡していたところ、多くの親子が試乗だけでもと希望されたため、当日手配したサイクルガイドの付き添いと見守りの中、びわこ一周レンタサイクルの車体で短い距離の試乗を体験された。今回、場所は米原駅サイクルステーションをスタート&ゴール地点としてサイクリング体験コースを設定した。車体運搬の必要がないことや車体サイズ交換の応用が利くこと、通常貸出とイベント進行を並行できスタッフの確保がしやすいことなどが利点であった一方で、行楽シーズンの週末の駅の利用になるため駅利用客の往来を阻む恐れがあったことやそれ故にイベントスペースとして窮屈であったこと、イベント参加者が通常貸出スペースと場所を混同してしまいがちであることなどが懸念点であった。参加者合計 54 名 27 組の親子に対し 35 台の自転車を用意し、主催者の一部参加分の 6 台を含めると合計 41 台がこのイベントに使われた。

3-6 愛荘町スイーツライド 2023(11月27日)

前年度同様、愛荘町が町内でのサイクルロゲイニングを用いたスイーツ巡り周遊企画を公募しエフエム滋賀が受託、実行委員会制で実施された。五環生活は、実行委員としての会議出席と、当日のメカニックサポートとして参画した。今回も良好な天気とは言えなかったが主催者判断で決行された。天気不良のため、応募は 32 組 86 名あったものの実際の参加者は 23 組 55 名であった。前年度までとは違い、マルシェやキッズダンスイベントも同時開催して来場者層の広がりをねらったようであった。

3-7 FUNRIDE の有料ツアー化

今年度より有料ツアーとして企画し一般からの参加を募った。これまで毎シーズン幾度も無料のお楽しみサイクリングイベントを「FUNRIDE」として実施してきた実績があったため、ツアーの日程やコースは新たに造成するのではなく「FUNRIDE」のものをベースにした。単純にレンタサイクル利用するよりもお得になるようにツアー料金を設定しホームページや SNS 上で参加を募ったが、応募はなく実施に至らなかった。開催予定日は 8 月 5 日(土)と 9 月 18 日(月・祝)に設定し、どちらも米原から河内の風穴を往復する「FUNRIDE」では人気のあったコースとした。

4) 委託事業

4-1 滋賀プラス・サイクル推進協議会

「サイクリング体験実施業務」を受託し実施した。本業務の目的として、「「ビワイチ」は「誰もが気軽に参加できる」「ただ走るだけではなく、滋賀の奥深い魅力にふれることが出来る」ことを伝え、本県の奥深い魅力やスポーツサイクルの魅力を中心に女性やファミリー層に対して訴求することで、新たなサイクリング人口の創出につなげるもの。」があげられ、5月21日(日)に希望が丘文化公園でのスポーツサイクル体験イベントの企画・実施を行った。五環生活所有のクロスバイク・ロードバイク・キッズバイク・小径車・マウンテンバイクとタンDEM自転車その他、メーカーからの協力を得て、ポタリングバイクやグラベルロードの E-bike 等も用意し多種多様なスポーツバイクを取り揃えて試乗会を行った。当日は晴天に恵まれ 216 名の参加者があり、参加者の多くが別車種に乗り換え体験していたため実際の貸出回数としては参加者数の 1.5~2 倍相当となった。

11月3日「ビワイチの日」を記念して行われる「記念ライドおよび子ども向けサイクリングガイドツアー実施業務」を受託し実施した。記念ライドは米原駅から長浜豊公園まで、子ども向けサイクリングガイドツアーは米原駅から木之本駅までのルート造成を、協議会と幾度もの協議や試乗を重ねて行った。また、当日参加者が使用するレンタサイクルや走行ガイド、保険の手配も行った。記念ライドはゲスト 2 名にガイド 2 名、子ども向けサイクリングガイドツアーは 8 組 19 名をガイド 4 名とサポートカー 1 台という体制で行い、木ノ本駅で終了した参加者の使用した自転車 19 台はヤマトマルチチャーター便による回収手配をかけて米原駅まで運搬した。当日午前中は濃霧のためビワイチルートからの展望があまり良くなかったが、正午ごろから晴れて視界も開けた。当日を含んだ期間でビワイチルートの自歩道に大規模な改修工事が施工されていたことが懸念点であったが事前に回避ルートを設定したため当該区間も含め無事に遂行することが出来た。

4-2 彦根市

「彦根市レンタサイクル管理運営委託業務」(彦根市レンタサイクルめぐりんこ)に関し、令和 4 年度中に、彦根市からの要望に応じた形で運営費用削減案を提出したところ、実際に大幅な仕様変更があった。京橋口サイクルステーションは令和 4 年度末(2023 年 3 月 31 日)をもって営業を終了し、令和 5 年度(2023 年 4 月 1 日~2024 年 3 月 31 日)は彦根駅前サイクルステーションと河瀬駅前サイクルステーションのみ運営することになった。五環生活は彦根駅前サイクルステーションの運営と河瀬駅前サイクルステーションの自転車整備や各拠点の乗り捨て車体の回収業務を受託した。これまで彦根駅前サイクルステーションは年末年始休暇を除いて無休で営業していたが、令和 5 年度から火曜水曜定休ただし繁忙期営業するという仕様が変わった。また、レンタル料金も大きく変更され、半日料金や車種別料金を撤廃し一律一回 1,000 円に統一された。この大幅な値上げにより、過去に利用経験のある顧客の中には利用を控える人も出た。結果、貸出台数は前年度比 64.5%に落ち込んだが、レンタル料金売上は前年度比 116.5%と伸びた。外国人観光客の利用も連日絶えないときも多く見られた。

4-3 米原市

「米原駅東口壁面装飾業務」を受託し、米原駅東口壁面デザインと施工を行った。装飾の目的は、米原駅東口を琵琶湖一周サイクリングのスタート地点・ゲートウェイとしてアピールすることであった。デザインは、ビワイチルートをサイクリングしているときに見える風景を模して、左手に広大に広がる琵琶湖の青、正面は走りゆく道、右手には琵琶湖を囲む山々の緑、を壁面のベースとし、その上に「BIWAICHI」の文字を大胆に、「THE BEST START FROM MAIBARA STA.」をビワイチスタート地点としてのキャッチコピーとして載せた。3月14日に施工され、春休みが始まるタイミングから米原駅サイクルステーション利用者および米原駅自由通路内の通行人の目に触れ、また撮影する人も多く見られ、拡散された効果が見られた。米原駅サイクルステーション利用者や一般のサイクリストが琵琶湖一周出発前や達成後の記念写真の背景として利用する定番のスポットにもなりつつある。



5) 五環カフェ(情報交流の場づくり)・五環ワークショップの企画運営事業

今年度は当該事業を休止した。

6) 五環生活に関する商品の開発・普及啓発事業

「CYCLE MODE RIDE OSAKA 2023」が3月4日・5日の2日間大阪の万博記念公園で開催され、例年どおり滋賀プラス・サイクル推進協議会によりビワイチおよびビワイチ・プラスをPRするブースが設置された。びわこ一周レンタサイクルのリーフレット2,000部もビワイチブースの配布資料のひとつとして来場者に配布された。五環生活からも5日に1名当日スタッフとして派遣し、協議会メンバーや出務してきた各市町の担当者と情報交換しつつ来場者との交流、ビワイチの魅力PRの場を共有した。

日常的な広報活動はSNS(Facebook、Instagram)で行った。Googleビジネスページ「米原駅サイクルステーション【びわこ一周レンタサイクル/BIWAICHI RENTAL CYCLE】」の内容を充実させ、Googleを通してのFAQ対応や質問回答、レビューへの返事等定期的にチェックし更新するようにしたところ、Googleレビュー評価は4.3、口コミ数は73件となった。とくに2023年後半よりインバウンド利用者による高評価のレビューが増え、それをチェックして予約来店されるインバウンド利用客もいたためGoogleレビューの影響力を実感した。

7) その他事業・総務部

前年度中の自主事業の急速な回復傾向から従業員増員を検討する可能性があったが、同時に、滋賀県の補助金を利用して貸出車体の増量が可能になり保有台数に余裕が生まれたため、限られたマンパワーでありながらも需要に応え且つ売上を伸ばすことが出来た。そのため、新たに雇用するということは発生しなかった。

今年度は、要相談事項や協議事案が特に発生しなかったため、運営委員会も開催しなかった。何かあればリモートでも報告・連絡・相談できるような役員・事務局・スタッフ間のコミュニケーションツールは整えており、小さい事案に関してはそれを利活用してスムーズに処理している。



2. 特定非営利活動に係る事業の実施に関する事項

事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
自転車タクシー運営事業	事業休止	休止		0名	通常運行: 0名	0
レンタサイクル運営事業	<ul style="list-style-type: none"> ・びわこ一周レンタサイクル 2/18～12/12 の約 10 カ月間(273 日間) 営業。臨時休業 4 日間 ・新車購入(レンタサイクル途中返却推進事業補助金) ・個人団体、ツアー団体への大口貸出 ・視察対応 3 団体 ・「ビワイチ記念タオル」1,200 枚作製・販売(ビワイチ商品開発支援補助金) 	通年	県内	5名	<ul style="list-style-type: none"> ・びわこ一周レンタサイクル利用: 2,353 名 ・途中返却利用:128 名 ・新車導入(6月～12月) 12 台 ・大口貸出 ドイツ人旅行団体:計 10 本 194 名 日本人 香港人 混合団体: 16 名 (4/6) 学生団体:12 名 (6/3) ・視察:3 団体計 61 名 ・ビワイチ記念タオル:販売数 62 枚、贈呈数 25 枚 	20,175
サイクルイベント運営事業	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヤスイチサイクルフェス」3/11(試乗体験) ・「MYCLING スタンプチャレンジ」8/26～11/30(グッズ受け渡し・景品応募受付協力) ・「H&S 親子ビワイチ体験」10/28 ・「愛荘町スイーツライド 2023」11/25(メカニック) ・ファンライド企画 2 回(8/5、9/18) 	通年	県内	5名	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヤスイチサイクルフェス」95 名 ・「MYCLING スタンプチャレンジ」95 名 ・「H&S 親子ビワイチ体験」参加者 54 名(自転車提供は 41 台) ・「愛荘町スイーツライド 2023」55 名 ・ファンライド 0 名(申込なし) 	473
委託事業	<ul style="list-style-type: none"> ・米原駅東口壁面装飾事業 ・滋賀プラス・サイクル推進協議会「スポーツサイクル体験イベント」5/21(イベント企画実施) ・同「ビワイチの日 2023 記念ライド」「子ども向けサイクリングガイドツアー」11/3(イベント実施) ・「彦根市レンタサイクル管理運営委託業務」(彦根市レンタサイクルめぐりんこ)R4 年度[2023/1/1～3/31]R5 年度[2023/4/1～12/31] 	通年	県内	12名	<ul style="list-style-type: none"> ・米原駅東口自由通路通行人不特定多数 ・「スポーツサイクル体験イベント」216 名 ・「ビワイチの日 2023 記念ライド」2 名 「子ども向けサイクリングガイドツアー」19 名 ・彦根市レンタサイクル利用(2023/1/1～12/31): 駅前 2,093 名 京橋 42 名 合計 2,135 名 	4,344
五環カフェ・五環ワークショップ企画運営事業	事業休止	休止		0名		0
五環生活に関する商品の開発・普及啓発事業	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS 発信 ・Google ビジネスページ更新 ・3/5CYCLE MODE OSAKA 2023 出展スタッフ 	通年		2名		276
その他事業・総務部	<ul style="list-style-type: none"> ・全体運用管理 ・財務管理 ・人事管理 	通年	県内	2名		1,029

特定非営利活動に係る事業会計損益計算書

特定非営利活動法人 五環生活
全事業所

[税込] (単位: 円)

自 令和5年 1月 1日 至 令和5年12月31日

《経常収支の部》

[経常収支の部]

【経常収入】

事業収入 (課税対象)	22,726,709
委託金収入	6,762,000
正会員会費収入	40,000
補助金収入	565,908
雑収入	56,220
受取利息収入	65
経常収入 計	65

30,150,902

【事業費】

期首棚卸高	223,845
期首商品・製品棚卸高 計	223,845
外注費	2,257,621
諸謝金 (事業)	6,331,550
通信費 (事業)	327,914
荷造運賃 (事業)	116,571
旅費交通費 (事業)	1,138,415
広告宣伝費 (事業)	492,182
備品消耗品費 (事業)	3,437,375
印刷経費 (事業)	192,812
修繕費 (事業)	147,011
車両維持費 (事業)	110,052
保険料 (事業)	401,560
租税公課 (事業)	494,700
貸借料 (事業)	215,255
支払手数料 (事業)	26,895
給料手当	6,897,651
法定福利費	2,188,466
雑費 (事業)	879,188
当期事業費 計	25,655,218
合計	25,879,063
期末棚卸高	△ 107,195
期末商品・製品棚卸高 計	△ 107,195
事業費 計	25,771,868

25,771,868

【管理費】

給料 手当	1,058,400
福利厚生費	5,282
水道光熱費	38,345
修繕費	59,620
地代家賃	542,760
諸会費	27,000
支払手数料	2,640
管理費 計	1,734,047

1,734,047

経常収支差額

2,644,987

当期正味財産増加額

2,644,987

前期繰越正味財産額

3,820,671

当期正味財産合計

6,465,658

特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

特定非営利活動法人 五環生活
全事業所

[税込] (単位: 円)
令和5年12月31日 現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未 払 金	4,883,472
現 金	784,660	前 受 金	995,421
ゆうちょ口座	48,618	納税充当金	79,736
普通預金りそな	178,473	流動負債 計	5,958,629
普通 預金(彦根支店)	9,916,693	負債の部合計	5,958,629
現金・預金 計	10,928,444	正 味 財 産 の 部	
(売上債権)		【正味財産】	
未 収 金	1,356,218	正味 財産	6,465,658
売上債権 計	1,356,218	(うち当期正味財産増加額)	2,644,987
(棚卸資産)		正味財産 計	6,465,658
棚卸 資産	107,195	正味財産の部合計	6,465,658
棚卸資産 計	107,195		
(その他流動資産)			
前払 費用	32,430		
その他流動資産 計	32,430		
流動資産合計	12,424,287		
資産の部合計	12,424,287	負債・正味財産の部合計	12,424,287

特定非営利活動に係る事業会計財産目録

特定非営利活動法人 五環生活
全事業所

[税込] (単位: 円)
令和5年12月31日 現在

《資産の部》

【流動資産】

(現金・預金)

現金 784,660

ゆうちょ口座 48,618

普通預金りそな 178,473

普通預金(彦根支店) 9,916,693

現金・預金計 10,928,444

(売上債権)

未収金 1,356,218

売上債権計 1,356,218

(棚卸資産)

棚卸資産 107,195

棚卸資産計 107,195

(その他流動資産)

前払費用 32,430

その他流動資産計 32,430

流動資産合計 12,424,287

資産の部 合計 12,424,287

《負債の部》

【流動負債】

未払金 4,883,472

前受金 995,421

納税充当金 79,736

スタッフ源泉所得税 (79,736)

流動負債計 5,958,629

負債の部 合計 5,958,629

正味財産 6,465,658